

心身共にたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成



茅小だより 第11号

令和8年1月7日(水)

茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校
校長 工藤 裕一郎

いちじついっしょう おね はなしちようかいこうちようこうわ
『一日一生』を胸に(お話朝会校長講話より)

みなさま あ ほんねん
皆様、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお
ねが ねが みなさま けんこう たこう こころ いの もう あ
願いいたします。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ
ます。



ほんじつ がつ にち すい はなしちようかい じっし こうちよう ぜんこうじどう
さて、本日1月7日(水)に、オンラインでお話朝会を実施し、校長より全校児童の
みな おむ つぎ はなし
皆さんに向けて次のようなお話をさせていただきました。

みな しんねん ほうふ ことし もくひよう こころ き たいせつ
「皆さんは新年の抱負がありますか。今年の目標を心に決めることは大切なことだ
おも わたし たいせつ いちじついっしょう
と思いますが、私にはもっと大切にしたいことがあります。それは『一日一生』という
ことば かんが い ことば つう ひとびと ゆうき まな
言葉を考えながら生きることです。この言葉を通じて、たくさんの人々に勇気と学び
あた いじん いちにち いっしょう かんが ひ とき
を与えてくださった偉人がいらっしゃいます。一日を一生と考えてその日その時を
たいせつ せい いっぱい い あす つぎ じんせい はじ きょう なに しっぱい
大切に精一杯生きる。そして、明日また次の人生が始まる。今日、何か失敗をしても、
おも なや いちどただ なお きも つぎ ひ あら
くよくよ思い悩むのではなく、もう一度正しくやり直そうという気持ちで、次の日の新た
な自分につなげる。そのような意味が、この言葉には込められています。皆さん、まず
きょういちにち すば いちにち
は今日一日を素晴らしい一日にしましょう。」

れいわ ねん ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきようちようさ けっかぶんせき
令和7年度全国学力・学習状況調査の結果分析

れいわ ねん がつ にち もく ねんせい たいしゅう じっし ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきようちようさ
令和7年4月17日(木)に6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の
けっか ぶんせき
結果を分析してみました。

<国語>

おお りょういき ひかくてきぜんこく けっか うわまわ じょうきよう うかが
多くの領域において比較的全国の結果を上回っている状況が窺えます。しかしな
こま み りょういき じゃっかん さ い み ほんこうじどう
がら、細かく見ていきますと、領域ごとに若干の差異が見られ、そこから本校児童の
けいこう よ と たと はな き か ぶんせき
傾向を読み取ることもできます。例えば『話すこと・聞くこと』、『書くこと』は、分析

結果から力が身に付いてきていると判断できますが、それに対して『読むこと』については、若干の課題があると捉えることもできます。特に、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる問題」や「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題」で苦戦している様子が窺えます。

一方、「目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題」や「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができるかどうかをみる問題」では、それぞれの力が身に付いてきていると判断できる様子が窺えます。

いずれも、それらの力は、日頃の授業での地道な取り組みによって、蓄積されてく
るものであると考えています。

<算数>

算数は、あらゆる領域において、全国の平均正答率を上回っています。

その中でも、本校の児童が身に付けてきている力が、『変化と関係』、『図形』において大きく発揮されていることが窺えます。特に、『変化と関係』の領域では、「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」や「『10%増量』の意味を解釈し、『増量後の量』が『増量前の量』の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題」、『図形』の領域では、「基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題」において、好結果が見られました。

一方、他の領域が全国平均を上回っていたのに対して、比較的全国とほぼ正答率が同じだったのが、分数に係る問題でした。

分析結果を基に、今後の算数の授業の在り方について、改めて検討していきたいと考えています。

<理科>

理科は、どの領域においても同等に、全国の平均正答率を上回っています。すべての領域においてバランスよく力を身に付けてきている様子が窺えます。

本校の正答率を領域ごとに着目すると、「地球」を柱とする領域の正答率に対して、

「エネルギー」を柱とする領域の正答率が比較的高くない状況が窺えます。この傾向は、全国・県についても同様に見られます。

問題ごとに着目すると、「地球」を柱とする領域では、特に「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる問題」において、好結果が顕著に見られます。また、比較的正答率が高くなかった「エネルギー」を柱とする領域においても、「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる問題」についての正答率は高い状況が窺えました。

何よりも、理科については、本校の児童の傾向として、どの領域の問題についても、無解答率が著しく低かったことが窺えました。このことは、子どもの自然体験、生活体験が乏しくなっていると言われる昨今の状況下で、我が国の将来に期待される「人が科学に関心を持つ」という観点からも評価に値する傾向ではないでしょうか。

＜児童質問調査＞

児童質問調査は、基本的生活習慣に関する状況、自己肯定感に関する状況、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取り組み状況、規範意識に関する状況、学習習慣等に関する状況を把握するためのものです。それぞれの質問に対して、「1. 当てはまる」、「2. どちらかといえば、当てはまる」、「3. どちらかといえば、当てはまらない」、「4. 当てはまらない」、など（例外回答方法もあり）の選択制で回答していますので、主に1と2を肯定的な回答として整理して、全国平均と比較するなどし、本校の児童の状況を分析してみました。

＜全国平均を5ポイント以上上回る主な質問内容と本校の割合＞

- ・自分には、よいところがある。(94.8%)
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。(81.1%)
- ・学校に行くのは楽しいと思う。(95.7%)
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。(83.6%)
- ・友達関係に満足している。(98.3%)
- ・読書は好きである。(80.2%)
- ・地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う。(87.9%)

- ・5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT機器を、週3回以上使用した。(91.4%)
- ・5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT機器の活用により、自分のペースで理解しながら学習を進めることができた。(87.1%)
- ・5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT機器の活用により、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かった。(95.7%)
- ・5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT機器の活用により、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができた。(84.5%)
- ・5年生までの学習の中で PC・タブレットなどの ICT機器の活用により、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなった。(93.1%)
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。(75.9%)
- ・5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。(89.6%)
- ・5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。(88.8%)
- ・5年生までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。(94.0%)
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている。(94.9%)
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた。(85.3%)
- ・国語の授業の内容はよく分かる。(89.7%)
- ・国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりくわしく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いている。(87.1%)
- ・国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けている。(87.0%)
- ・算数の授業の内容はよく分かる。(85.4%)
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。(88.8%)
- ・算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。(71.6%)

- ・少数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしている。(89.6%)
- ・理科の勉強は得意である。(83.6%)
- ・今回の算数の問題での、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。(85.5%)
- ・今回の理科の問題での、解答を文章などで書く問題について、最後まで解答を書こうと努力した。(87.2%)

<全国平均に満たない質問内容と本校の割合(3ポイント以上満たない内容)>

- ・自分の学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。(76.7%)
- ・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(77.6%)
- ・国語の授業で、先生は、自分の良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれる。(75.0%)
- ・国語の授業で、先生は、自分の学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる。(70.7%)
- ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う。(25.9%)
- ・健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てている。(64.6%)
- ・国語の問題の解答時間は十分だった。(67.5%)

その他、全国平均との比較の上では浮き彫りにならなくても、本校の児童による肯定的な回答率が高く、本校の取り組みに照らして評価できるものをいくつか挙げておきます。

- ・はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。(100%)
- ・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。(97.4%)
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。(98.3%)
- ・毎日朝食を食べている。(98.2%)
- ・人が困っているときは、進んで助けている。(94.8%)
- ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。(94.8%)

- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う。(94.0%)
 - ・先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。(88.8%)
- ⇒ 昨年度の結果から、本校の努力目標としていた視点でした。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。(88.0%)
 - ・授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う。(86.2%)

分析結果から、本校の児童のウェルビーイングが高めであること、学校生活を楽しんでいると感じている児童が多いこと、地域や社会に貢献し、自己有用感の向上に対するモチベーションが高いこと、回答したすべての児童が、いじめがいけないことであるという認識を持っていること、人が困っているときに進んで助けようという気持ちを持っている児童が多いこと、読書が好きな傾向があることなど、本校が日頃より重点的に育成したいと考えている観点の回答に好結果が見られ、大変嬉しく思いました。

分析結果から、現在の本校の評価と課題を改めて見極め、今後の教育活動に生かしてまいりたいと考えております。

※児童質問において、特に全国と比較して顕著だった肯定的な回答をグラフ化してみました。

